

P I a m

D o

S e e

教育雑感

朝日町立朝日中学校

校長 福留 正二

かつて私が講師をしていた時、ある年配の国語の先生に、教師としての心構えについて次のように言われたことがあります。

「教育とは『教え、育てる』と書くが、それは『^おえ^え、^そだ^だ』ことだと思っている」
何のことはない、全くの当て字ですが、しかし、言い得て妙だと感じました。「愛し得」は子どもに対する愛情であり、教師としての情熱の源です。「素立てる」とは、大人の思惑や思い込みではなく、子どもを深く見つめ、その意欲や素質・才能を伸ばしてやること、そのための指導技術を磨く必要が教師にはあるのだとおっしゃりたかったのでしょうか。

時代の移り変わり、社会の変化によって、人の価値感は多様化し、教育界に求められることも多様化しました。しかし、どの時代にあっても「子どもをいとおしく思い、この子が自分なりに立派に社会人として成長してほしい、自立してほしい」と親も教師もみんなが願っていることは間違いないでしょう。

さて、子どもに愛情を注ぐことについては疑義を挟む余地はないのですが、「素を立てる」となるといささか難しいものがあります。“素”はもとより簡単に見えるものではなく、子どもの成長の過程において見え隠れするものだと思います。まれに小さい頃からの英才教育というものもありますが、結果として子どもの可能性を狭めていることもあります。子どもとよく向き合いながら考えることが大切でしょう。

この“素”を立てる」ときの心構えとして、気がかりなことがあります。昔と今とを比べてみて、私は特に、現代人が失いつつあるものの一つに「忍耐力」の指導があるのではないかと思います。確かに教育の主役は子どもであることに間違いはないのですが、「子どもに寄り添って」と考えるあまりに、子どもに我慢させることを忘れがちになってはいないでしょうか。子どもがつまづかないように、子どもが苦しまないように、と周りの大人が気を配りすぎてはいないでしょうか。ほしいというものを与えすぎてはいないでしょうか。子どもの言い分を鵜呑みにしてはいないでしょうか。そうしたことがかえって子どもの成長を歪めてしまうことにもなりかねません。「見守るとき、突き放すとき、寄り添うとき、抱きしめるとき、叱るとき」など適切に使い分けているのでしょうか。「苦しくてもがんばる」「悔しくて、腹が立つけれども我慢する」…そんなことは世の中に出るとどれだけでもあることです。勉強でもスポーツでも仕事でも、我慢し、がんばり続けたからこそ花開くということがあるのです。苦しみを自分自身の力で乗り越える経験こそが、自分の素質や才能を伸ばすための必要条件なのではないでしょうか。

今一度、教育者としても親としても、子どもの指導・支援のあり方を考えていかねばならないと感じています。

相手の立場に立って、認め合うことから

朝日町立さみさと小学校

教諭 飯田 真由美

今年の5月から7月までの3か月間、富山県総合教育センターの教育相談部において、特別支援教育に関する研修の機会を得ました。

教育相談部というところは、毎日たくさんの相談の電話が鳴り、親子で来所されての相談や学校や幼稚園などに出かけての教育相談で大変忙しいところです。そんな忙しい毎日ですが、先生方はいつも子どもや保護者の立場に立って、丁寧にアドバイスをされていました。自分の都合ではなくて相手の立場で考えることが一番大事なことだと教えていただきました。すぐけんかになる、集中して学習できない子どもは、言うことを聞かない困る子どもだと思いがちです。しかし、子どもの立場になってみると、「そこにいるのがつらい」「何を言っているのか分からない」などで困っている状況があって、それによって起こっている行動だということです。だから、一番困っているのは子どもなのです。教師が子ども目線で、子ども一人一人の思いに寄り添って支援することや周りの環境を分かりやすく変えたり、肯定的なかかわり方をしたりすることで子どもの困っている行動が減り、教師の困っていることも減るのです。

また、研修中にたくさん聴講することができました。その中で、特別支援教育ネット代表の小栗正幸先生の「問題行動の対応」が大変参考になり、二次障害にならないように今後気をつけたいと思うことがたくさんありました。それは、「肯定的フィードバック」です。対応の仕方として、カウンセリングではなくサポート対応が大切だということです。

例 「僕はみんなと違うからだめなんだ」

- ・みんなと同じようにできないことが苦しいのですね・・・・・・×
- ・他人との違いが分かるのはすばらしいですよ・・・・・・○

「あいつ腹が立つから殴ってやろうか」

- ・殴ってやりたいくらい腹が立つのですね・・・・・・×
- ・そんなに腹が立っているのに我慢している君は素敵ですよ・・・○

相手の立場に立って、禁止や罰による指導ではなく肯定的にサポートをするということは、実際に行うのは難しいことです。つい「じゃあ、○○できんよ」「○○したら××だからね」などと相手のせいにして禁止や罰を口に出していることがあります。

これからは、困っている子どもの問題行動の理由を考え、子どもに分かるような支援を心がけなければならないと思っています。特別支援が必要な子どもは、叱られ失敗ばかりして自信をなくすことで、反社会的な行動につながっていきます。褒められ、認められることで自分は大切にされている、必要とされていると感じることができます。まずは、認め合い支え合う学級づくりから始めたいと思います。



<ニューフェイス紹介>朝日町派遣スクールソーシャルワーカー

「SSW（スクールソーシャルワーカー）として」

上波 薫

昨年度より、朝日町教育センターに派遣され、朝日町の小中学校にスクールソーシャルワーカーとして活動させていただいています。「スクールソーシャルワーカーって何だろう？」と、何者かもよくわからない私を、朝日町の学校の先生方、子どもたち、保護者の方々、地域の方々には温かく迎え入れていただき、とても感謝しています。おかげで、少しずつではありますが、名前を知っていただけているかな、と感ずることがあります。しかし、まだまだ周知されていないのも事実です。そこで、少しでもスクールソーシャルワーカーについて簡単に紹介したいと思います。

スクールソーシャルワーカーとは、福祉の視点から、子どもたちを主役とし、一人一人の環境を捉えながら、問題解決に当り、子どもたちだけでなく、家庭、学校や関係する全ての機関と連携しながら(ネットワークづくり)、一人一人に必要な支援を周囲の環境から引き出していく(環境に働きかける)手助けをしています。より良い教育環境の改善に向けて「一緒に考える人」と思っただけければ幸いです。

朝日町では、各学校のニーズに応じて、児童観察、保護者面談、家庭訪問、関係機関への連絡などを行っています。子どもたちを取り巻く社会背景や家庭環境を理解し、子ども達の心に寄り添い、一緒に歩いていくかわりが、問題解決につながっていると感じています。うれしいことは、すれ違う子どもたちが「こんにちは」と、とても自然にあいさつしてくれることです。とても素直な心を持つ朝日町の子どもたちです。この子どもたちの未来をつくる手助けができればと思っています。

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちをみんなで見守っていくためにもスクールソーシャルワーカーを活用していただければと思っています。力量不足でみなさまのお役に立つには、まだまだ未熟ものではありますが、今後ともよろしくお願ひいたします。



<ニューフェイス紹介>新規採用教諭として

勤務して感じたことと今後の抱負

あさひ野小学校 養護教諭 南 裕香里

あさひ野小学校で勤務し、早半年が過ぎようとしています。振り返ってみると、長いようであつという間に過ぎていったように感じます。

初めてあさひ野小学校の子どもたちに出会った時、たくさんの子どもたちが大きな声で「おはようございます」とあいさつをしてくれました。新任式では素晴らしい歌声を聞かせてくれました。休み時間には中庭やグラウンドを元気いっぱい走りまわり、かえるやバッタを捕まえ、嬉しそうに見せてくれます。

そんな元気いっぱいのあさひ野っ子たちですが、時には体調を崩し保健室に来ることがあります。2学期に入り、運動会の練習が始まると暑い日が続きました。連日の練習で子どもたちにも疲れが出ていたようで、ベッドで休養したり、早退・欠席したりする子が何人もいました。しかし、当日にはみんな体調を整え、無事運動会を終えることが出来ました。どの子もみんな全力で競技に取り組み、互いに応援する姿に目頭が熱くなりました。

最近、内科的な訴えで保健室に来た子どもに対して、その裏に隠された心の原因があるのではないかと感ずることがあります。自分の対応がこれでよかったのかと、悩むことが多くありますが、子どもたちの訴えを受け入れ、話しやすい雰囲気づくりや信頼関係を構築していけるよう、子どもたちの心に寄り添った対応が出来るようになりたいです。

これまでは、なかなか子どもたちとふれあう時間をつくれなかったのですが、今後は時間をつくるように意識して子どもたちとたくさんふれあって共に学んでいきたいです。



平成23年度センター事業より

○●○ 朝日町小中学校教育講演会：6月24日（金）○●○



講師：植草学園大学
教授 野口 芳宏 先生
演題：「学力形成を約束する授業の技術」

野口先生には、「授業の主人公は、教師」「授業は、学力を形成するもの」「授業技術は、知識の安定的行為化」ということを国語の模擬授業を通してお話していただきました。

参加した先生方からは、「具体と理論が結びついてとても納得できる話だった」「挙手指名から脱却し、ノート発言や机間巡視による指導を実践したい」「教育の流行に惑わされず、不易の部分を大切にすることを改めて認識させていただいた」など、大変参考になったという感想が多く聞くことができました。

○●○ 朝日町「とやま型学力向上プログラム研修会」：8月8日（月）○●○

講師：筑波大学
教授 坪田 耕三 先生
演題：「新学習指導要領を活かした授業の在り方」



「とやま型学力向上プログラム」を踏まえた授業改善を支援するとともに、教師の実践的指導力の向上を図る趣旨で実施されました。

坪田先生からは、模擬授業を通して、算数的思考の在り方、算数授業づくりのポイントを分かりやすく教えていただきました。「論理的思考力」「共生・共創の学び」「想像力をはぐくむ活動」「探求的態度をはぐくむ」「子どもの欲求に培う授業」など、受講者はその理念に共感し、授業をつくるヒントを数多く得ることができた研修会でした。

●○● <外国語活動研修会> 8月25日（木）●○●



講師：東部教育事務所
外国語活動指導員 石金 寛子 先生
朝日町外国語活動推進委員
内容：外国語活動の授業展開についてのワークショップ研修

各学校の外国語活動推進委員の先生方が中心となって、英語ノートのアレンジした授業の進め方について演習形式で提案していただきました。参加者は、少しずつステップアップしていく授業の流れやゲームの様々なバリエーションを実際に体験したり、教師役・児童役の双方の立場から感想を交流し合ったりすることで、外国語活動の授業のイメージをつかむことができました。「2

学期からの実践に生かせる」と好評でした。石金外国語活動指導員からは「移行期を終えた外国語活動の在り方」ということで評価の在り方や来年度以降の英語ノートの動向等について指導助言をいただきました。

●○○<授業力アップ研修会 理科>7月29日(金)●○○

講師：総合教育センター 科学情報部
 澤田昭芳 先生 溝口 秀勝 先生
 西谷裕子 技師
 内容：理科実験・観察「電気の利用」
 「動物の体のつくり」



新学習指導要領実施で増えた学習内容についての実験・観察の演習を行いました。「電気の利用」では、実際の実験を通して、様々な条件で結果が変わっていくことや児童のつまずきやすい実験のポイント等について分かりやすく教えていただきました。「動物の体のつくり」では、発展教材としてカエルの解剖を行い、体のつくりの観察の視点の学習に役立ちました。

●○○<授業力アップ研修会 児童理解>7月29日(金)●○○



講師：朝日中学校
 カウンセリング指導員 梅澤 健一 先生
 内容：学級づくりに役立つ
 構成的エンカウンター

「ひたすらじゃんけん」「4つの窓」「まちがい絵さがし」「数字1～50」「1リットルの油」等のエクササイズを体験し、自己理解、他者理解、協力することの心地よさを味わうことができました。すぐに仲間づくりができるエクササイズなので、学級で実施してみたいと好評でした。

●○○<情報教育研修会>8月9日(火)●○○

講師：県総合教育センター
 研究主事 上野 敏浩 先生
 町情報教育研究調査委員
 内容：授業におけるICT活用
 校務に役立つパソコン実技



上野先生からは、日常的に授業でICTを活用するコツと効果について講義をしていただきました。ICT活用は、まずはやってみることが大切と、受講者の意欲も高まりました。

町情報教育研究調査委員からは、賞状や封筒への差し込み印刷の方法やPublisherを使ったパンフレット作成について実技研修を行いました。参加者からは、「すぐ学校で使える研修でよかった。ぜひ使ってみよう」と実践意欲につながる研修会となりました。



●○○<現地学習会>8月1日(月)●○○

内容：社会科・生活科・総合的な学習に役立つ
 地域素材の現地学習
 見学先：①ニッソービバレッジ
 ②長崎助之丞宅 ③バタバタ茶伝承館

日ごろ見学する機会がないニッソービバレッジの見学では、最新の機械で徹底した管理のもと、全国からの注文の飲料が大量に生産されているのを目の当たりにして、参加者からは「初めて知った」と驚きの声の続出でした。また、蛭谷地区では、蛭谷和紙やバタバタ茶に関わる方々とのふれあいから朝日町の伝統文化の歴史に触れることができました。気軽に参加でき、楽しい(おいしい?)研修だったと、大好評でした。

●●● 朝日町学校教育運営研修会 ●●●

第1回 8月11日 (木)

講師：魚津シーサイドプラザ

代表取締役 美谷 隆一 先生

演題：「企業経営は、人とのつながりから」

美谷先生には、現職の教育委員長であり、企業経営者の立場からみた、教育感・社会観をお話していただきました。会社を立ち上げるまでの経緯をもとに「やってみないとわからない」「みんなの意見を取り上げて運営していく」「感謝・絆を大切にしていく」など、日々の教育活動はもちろん、教師自身の生き方にも生かすことができる示唆をいただきました。



第2回 8月18日 (木)



講師：ほんだクリニック

臨床心理士 中塩 真巳 先生

演題：「保護者とのかかわり、子どもとのかかわりから見えてくるもの」

中塩先生には、臨床心理士の立場から、保護者・児童生徒とのかかわり方について具体例をもとに話していただきました。「義務教育には親の協力が不可欠であること」「決めつけしないで、相手の気持ちに寄り添って関わっていくこと」「いかなる場合でも子どもは、心の底では、親と和解し、受容されることを願っている」など、日々の教育活動に生かせる示唆をいただきました。



第49回朝日町児童生徒作品展

10月1日(土) 2日(日) 第49回朝日町児童生徒作品展が、アゼリア・ロビー



にて開催されました。今年度は、各小中学校から52点の作品が出品されました。来場者からは、「様々な研究があり、発想の豊かさに感心した。発明工夫部門も楽しい作品が多かった」「研究の動機に児童生徒の思いが現れていて素晴らしい」などの声が聞かれました。

10月21日(金)～24日(月)には、富山市科学館にて第69回富山県科学展覧会が開催されます。朝日町からは、あさひ野小学校5年四杉香穂さんの作品「すずしきの研究パート2」が出品されます。



お知らせ

センターでは、22年度・23年度朝日町学力向上プログラム研修会の講師をしていただいた筑波大学附属小学校教諭・盛山先生、筑波大学教授・坪田先生の授業DVD「実践授業 算数的活動DVD3本セット」を購入しました。各学校及び個人研修にぜひご活用ください。

他に購入したいDVDの希望がありましたら、お聞かせください。

